

式辞

厳しかった冬も過ぎ、蓮華や爺、鹿島の山なみも凜とした純白の姿からどことなくやわらかで穏やかな青みをおびた姿に変わってきました。皆さんの入学とともに、開校したての本校に春がやってきました。

さて、本日平成二八年度長野県大町岳陽高等学校の入学式を挙行いたしましたところ、本校の開校に際しましてご尽力をいただきましたご来賓の皆様のご臨席を賜り、栄えある入学式に花を添えていただきましたことに深く感謝申し上げます。

晴れて入学を許可された二四一名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、今日までお子さまを心をこめてはぐくんでこられた保護者の皆様、お子さまのご入学おめでとうございます。新入生の皆さんは、本校入学を自ら志し、選抜試験を経て今日から大町岳陽高等学校の一員となりました。本日の喜びは、皆さんのこれまでの努力の結晶であることは、いうまでもありません。しかし、その陰には、皆さんを慈しみ育ててこられたご家族、小学校や中学校で教えを受けた先生方の心のこもった

指導があったことも忘れてはなりません。また、皆さんのまわりで、地域の中で、気づかなかったかもしれないけれども見守る人たちがいたということにも思いをいたしてください。

本校の校名の岳陽の「岳」(がく)は「けわしい山、山の頂」を表しており、読み方は「学ぶ」の学に通じ、大町の地域性表すとともに、さらなる高みを目指す意味を含んでいます。自分の目標という頂に向けて一歩、一歩、ステップを踏んでいく諸君らの姿をイメージすることができません。また、岳陽の「陽」は、「日が昇ること」、「積極的な動き、自ら意識して働きかけていく動き」をあらわしており、諸君らが本校での学びにより成長していく姿をイメージすることができます。岳陽の校名は、気高いアルプスに抱かれた自然豊かな地で、生徒一人ひとりがそれぞれの目標に向かって学び、日が昇るように育って行って欲しいという願いを込めて命名されたものです。校名に込められた願いを胸に、新入生のみなさんは本校で遥かなる高みへの最初のス

テップを踏みだしました。私達、教職員は、君達の頂へのステップをあらゆる場面で応援していきます。

私たちの住む松本盆地は、西と東で全く景色が異なります。西の山は北アルプスで標高2500メートルを超える高い峰々が連なっています。国道一四七号線を車で南から本校に向かう途中、旭町の交差点を左折し、大糸線の跨線橋を上り詰める時、目に飛び込んでくる蓮華、爺、鹿島の山なみは圧倒的な迫力で私達に迫ってきます。私の知人は、その美しさ、神々しさはカメラでも、ビデオでも、スケッチでもいかなる手段を用いても表現できないと言っていました。それに対して東の山は、標高が1000メートルほどの穏やかな山なみが続きます。ではなぜ、東西で山の姿がこうも違うのでしょうか。大地がどんな岩石でできているのか。その岩石に含まれている化石や鉱物はどんなものか。それらの岩石がどういう構造で分布しているのか。こういうことを調べる学問を地質学といいます。多くの地質学者たちの、努力のおかげで、北アルプスは比較的固い火成岩と呼ばれるマグマが冷えて固まっ

た岩石の地層でできていることがわかりました。それに対して、東の山は砂や泥や石ころや火山灰が固まってできた堆積岩という火成岩に比べやわらかな岩石の地層でできていることがわかっています。さらに、東の山の地層の中には、北アルプスを作っている火成岩の丸い石ころがたくさん含まれています。このことから北アルプスの山なみは、東の山なみができる前から、どンドンと高さを増し、水によって削られていたこと、そして北アルプスをけずった砂や石ころを運んだかつての川の流れが西から東に向かって存在していたことがわかります。つまり北アルプスは東の山より先にできていて、しかもかなりの速さで高さを増し続けているため標高が高くなったのです。しかも長い間、激しく雨雪に削られたため、深い谷や鋭い峰をもつようになったのです。最近では、鹿島槍のふもとの谷には氷河という氷の塊が動いて谷を削り続けていることもわかっています。それに比べて東の山は北アルプスよりだいぶ遅れてゆっくりと高さを増していききましたが、やわらかな堆積岩でできているため、雨雪に容易にけずられたため、あのような優しい山なみができる

のです。実は、こうしたことがわかってきたのは、何年にもわたる、多くの地質学者の血のにじむような努力のおかげなのです。彼らは、ハンマー一本で岩石をたたき、含まれる鉱物や化石を調べながら、岩石の露出している沢を何日も何本も登りつめ、時には断崖絶壁に取りつき、道なき道を調査してコツコツと自分の足と頭で事実を積み上げて行くのです。こうした野外調査に1600日を費やした地質学者もいます。こうした地道な研究を続けることで、少しずつ少しずつ大地の壮大な物語が解き明かされてきたのです。

自然現象でも、人間社会の政治、文化などのいろいろな事象も複雑な要素からできています。結論が明らかかなことでさえ、違う考え方や立場があります。インターネットで簡単に答えだけがわかる事も多く有りません。しかし、インターネットで得られる情報が正しいかどうかの判断は使う人の知識や経験に基づいているのです。また、インターネットで簡単に答えを得た瞬間に、思考はそこで停止し、知識も広がることなく、ほかの意見の存在にも気づかず、それへの寛容な心も

生まれません。やはり、最終的に、より正しい結論に達するためには広く判断の材料を集め、自分で考えるほかはないのです。大地のほんとうの歴史は、インターネットだけでは決してわからないのです。野外に出て、ハンマーと自分の頭を使わないとわからないのです。二一世紀のこれからを担う君達に求められているのは、簡単に答えを求めることではありません。答えのない課題に挑戦していく意欲、正しい情報を集めそれをもとに考えることです。大町岳陽高校での3年間、授業はいうまでもなく、クラブ活動、生徒会活動など全ての場面において、様々な経験を通して、判断の基礎となる力を養うとともに、「広く判断の材料を集めて、自分で考える」ことを実践して行ってほしいと願います。そして、3年後、地域や未来を担う人となつてはばたいて行ってください。

最後に、お願いがあります。友達はもちろんですが、先輩、先生、学校に来られたお客様、地域の皆さんに「こんちわ」と大きな声であいさつをしてください。自分から進んで大きな声で「こんちわ」を言うてください。きっと大きな「こんちわ」が返ってきます。

先輩たちと大町岳陽高校の新たな校風を築いてくださ
い。

平成二八年四月七日

長野県大町岳陽高等学校長 藤江明雄